

Nami-Aru? / Internet

「海の家」

文：ジョージ・カックル

やっと夏になったね。夏になるとサーファーたちは生き返るよね。いくら冬の方が波が良くて、やっぱり夏がくると気がはやる。太陽の下、トランク一枚で海に入ってサーフィンできるのもうれしい。

鎌倉では夏が近づいてくるのを、いろんな形で気付く。たとえば、軒先に作られたツバメの巣のなかから赤ちゃんの声が聞こえてくる、あじさいを見にきた観光客が雨の中を歩き回っている。俺はといえば、海の家がはじまるのが、なにより夏のスタートを感じる。

今、由比ヶ浜海岸に行くと、あちらこちらでトラックが材木をおろしているのを見かける。実は俺、最近、海を家の工事を手伝いに行っているんだ。そもそも、去年のある日、海へ散歩に行くと、知り合いが経営している海を家の工事に出くわしたことからはじまる。その工事はだいぶ遅れていて、ちょっと手を貸したらクセになってしまったんだ。それからというもの、時間があればしょっちゅう自転車を出掛けた。今年もその友だちから電話がかかってきて、手伝うことになったときは、もううれしかったね。海岸の砂の上で、汗を流しながら、太陽の下で働くのは最高だ。最近はそういう時ぐらいしか、楽しい大工仕事ができないからね。使っていない筋肉を使うから、筋肉痛がすごいんだけど、それもまた気持ちいい。身体を使ってないんだと、思わせてくれる。

ちょっと休憩しようと腰を下ろすと、目の前に海が広がる。サーファーが波に乗っているのが見えるんだ。サーファーたちがただ海岸をボードを持って行くのを見ているのだけでも面白い。どこに入るのかな？ とか、はじめたばかりのサーファーがいれば、「その波、行け！」なんて、思わず応援してたりね。

飽きないよね、自分が海に入れなくても、見ているだけでも、自分はサーフィンしている感じ。その上、サーファーとして、海で仕事して、波の近くにいるだけで、自分がサーフィンした気持ちになれる。この感覚、サーファーにしかわからないよね！